

地域と大学を結ぶ広報誌

城西

Vol. 11
2014.12

ニュース

第47回高麗祭

笑顔と伝統

次世代へつなぐ

50周年に向けて



ニュース 「高麗川 川のまるごと再生プロジェクト」着手式典
本学「高麗川プロジェクト」から発展
河川敷に遊歩道 憩いの場へ

コラム 「埼玉県医療を考えるとことん会議」
住民は「当事者」 一体となり危機突破を

目次

- 02 [ニュース]
第47回高麗祭
笑顔と伝統 次世代へつなぐ
—— 50周年に向けて
- 04 [紀尾井町ニュース]
- 05 [ニュース]
「高麗川 川のまるごと再生プロジェクト」着手式典
本学「高麗川プロジェクト」から発展
河川敷に遊歩道 憩いの場へ
- [コラム]
「埼玉県医療を考えるとことん会議」
住民は「当事者」 一体となり危機突破を
伊関友伸教授（経営学部）
- 06 [ニュース]
[シリーズ] 浮世絵
- 07 [シリーズ] 先輩訪問
新潟第一ホテル社長室長 鈴木雅之さん
- 08 [シリーズ] 学生互版ワイド
学内外で活躍する城西人たち
- 10 [図書館だより] [ニュース]
- 11 [エリア紹介]
越生町 初歩き 新春武蔵越生七福神めぐり
鶴ヶ島市 「脚折雨乞」の準備が始まります
東武線沿線情報
「東武東上線 埼玉S級グルメきっぷ」発売中!

題字：創立者 水田三喜男 先生

今号の表紙

今年で47回を数える「高麗祭」は木々が色づき始めた11月2、3、4日の3日間にわたって、華やかに開かれました。来年の50周年を前に「笑顔と伝統」を前面に押し出した今年の高麗祭。同窓会や後援会の方々、市民や学生、教職員ら約1万5000人が楽しみました。



ニュース

2014.
11.2~4

第47回高麗祭

笑顔と伝統 次世代へつなぐ —— 50周年に向けて



秋晴れに恵まれた11月2、3、4日の3日間、本学の最大のイベント第47回「高麗祭」が開かれました。今年のテーマは「ありのままの高麗祭～笑顔と伝統の城西～Next 50th Anniversary」。来年の創立50周年に向けて、今一度受け継いできた伝統を活かして来場者も学生も笑顔で過ごせる高麗祭にしたい。また、その思いを次の世代へとつなげたいという気持ちが込められました。



廣田和・高麗祭実行委員長

総合体育館で行われた開祭式で、第47回高麗祭実行委員会の廣田和委員長（経済4）は「昨日は雨でしたが、今日は良い天気が高麗祭を迎えることができました。私たちは1年間努力してきました。例年にも負けない高麗祭ができると信じています。皆さん、3日間、楽しみましょう」と力強くあいさつしました。

開祭式には、学術交流協定を結ぶ中国の寧夏理工學院の趙惠娥学長や東北大学外国語學院の王秋菊副院長らの来賓が参列されたほか、今秋入学したハンガリーやポーランド、チェコ、スロバキア、中国、マレーシアの留學生が紹介されました。

期間中、タレントの阿部祐二さんの講演会や歌手の加藤ミリヤさんのコンサート、落語家の林家木九蔵師匠の城西寄席、俳優の沢村一樹さんのトークショーなど多彩なイベントが行われ、それぞれが秋の日を楽しみました。

薬学部が共同開発

越生の柚子使用 入浴剤とバスオイル販売

越生町特産の柚子ゆずの新商品が高麗祭にお目見えしました。薬学部と越生特産物加工研究所が共同開発した入浴剤「柚子の潤い」（エッセンス）と「柚子のしずく」（バスオイル）です。

同研究所では、柚子の果汁を圧搾した後に残る搾りかすや種の



柚子の新商品の説明に耳を傾ける来場者

50周年記念・新種のバラ 植樹式

高麗祭初日の2日、水田清子記念ローズガーデンで、来年の創立50周年を記念した新種のバラ「Noriko Mizuta Josai 50」の植樹式がありました。薬学部父母の会の「薬学協力会」(木村恵会長)が手掛けたパティオ系統のバラの新種を「Noriko Mizuta Josai 50」と命名して、水田宗子理事長に寄贈しました。

このバラは、香り豊かで気品を感じるピンクの大輪で、ローズガーデンの中心付近に苗木が植えられ、水田理事長や森本雅憲学長らが根元に土をかけました=写真。水田理事長は「高麗祭の開催に伴って、私の名前を冠するバラをいただき大変うれしく思います。城西のバラとして世界で愛されるバラになっていくと思います。このバラ園とバラを愛していただきたい」とあいさつし、薬学協力会に感謝状を贈呈しました。



量を減らし、再利用するとともに廃棄コストを削減できないか検討してきました。そこで薬学部と共同で搾りかすの二次利用のアイデアを提案。薬学部が紹介した東京都内の健康食品・化粧品企画開発会社「薬研」が加わって、柚子湯と乳化技術を組み合わせると新しい入浴剤が生まれました。肌のケアや加齢臭の抑制のほか、肌にすべすべ感と爽快感を与えることが期待されるそうで、販売ブースでは来場者が熱心に説明を受けていました。



国際展示会。ダンスや歌などのパフォーマンスも披露

国際展示会 文化体験多彩に

17号館1階では留学生による国際展示会が2日と3日に開かれました。ハンガリーなどヴィシグランド4カ国(V4諸国)、中国、マレーシアの3ブロック。お国柄や文化を伝えるさまざまな展示のほか、民族衣装体験(ハンガリー)や切り絵(中国)、ボディペイント(マレーシア)などのコーナーもあり、来場した親子連れやグループが興味深そうに挑戦していました。また、一角のステージではダンスや歌などのパフォーマンスも披露され、来場者を楽しませました。



プロレスラー武藤氏登場 400人が熱狂

昨年9月に旗揚げした、武藤敬司プロ率いるプロレス団体「WRESTLE-1」によるプロレスが4日、総合体育館で行われました。同団体が学園祭に参加するのは初めて。本格的なリングと照明、進行の下で行われた迫力ある試合に立ち見も含めて約400人が歓声と拍手を送りました。メインイベントの6人タッグの前にあいさつに立った武藤プロは「私は現役30年、まだチャンピオンとして頑張っている。体力に自信のある方はぜひプロレスに来てほしい」と会場の笑いを誘った後、「皆さん、WRESTLE-1のプロレスを見て、元気になって帰ってください」と呼びかけました。



プロレス団体「WRESTLE-1」の試合は立ち見も出るほどの大盛況に

紀尾井町ニュース

法人本部および姉妹校の城西国際大学と共同で実施した事業やニュースなどをご紹介します。

チェコ共和国大臣来学

2014.11.13

講演 学生一人一人と交流

チェコ共和国のヤン・ムラーデク産業貿易省大臣が11月13日、東京紀尾井町キャンパスを訪問され、講演と学生たちとの交流が行われました。本学は国際交流活動に力を入れています。特にV4諸国の大学との学生交流に積極的に取り組み、今年からチェコの留学生2人を受け入れました。こうした取り組みが、ムラーデク大臣の本学訪問に結び付きました。

ムラーデク大臣は水田宗子理事長や両大学関係者、チェコからの留学生らと会見した後、「チェコ共和国と日本」をテーマに講演をされました。講演会後は、ムラーデク大臣の強い希望で学生たちとの交流の場が設けられました=写真。スケジュールの制約で約20分という短い時間でしたが、チェコ語を学ぶ学生、チェコやV4からの約30人の留学生ら一人一人と会話をされました。ムラーデク大臣のご訪問を契機として今後、チェコの大学との一層の交流推進が期待されます。



パリ・エスト・クレティユ大と学術交流協定

2014.10.1

学生交流・情報交換促進に期待

学校法人城西大学は10月1日、フランスのパリ・エスト・クレティユ大学（旧パリ第12大学）と学術交流協定を締結しました=写真



本学は中期目標においてグローバル人材の育成に向けた国際交流活動強化を掲げており、これで海外の大学との学術交流協定締結は128校となりました。また、フランスでは3校目となっています。

パリ・エスト・クレティユ大学の国際交流の責任者であるエリック・ハーツラー氏が同日、紀尾井町キャンパスを訪れ、国際会議室で水

田宗子理事長と協定書を交わしました。

パリ・エスト・クレティユ大学は、医学や国際関係、法学、文学、語学、経済などの学部や研究所を持ち、約3万人の学生が学んでいます。毎年、世界各地から約3000人の留学生を受け入れており、本学とも学生の交流のほか、研究成果の情報交換などの促進が期待されます。

浙江省凱瑞教育發展センターと覚書締結

2014.10.15

中国との学術交流さらに進展

学校法人城西大学は10月15日、中国・浙江省凱瑞教育發展センターと学術交流に関する覚書を締結しました。浙江省衢州市教育局の翁孝川副局長や華中科技大学の李培根前学長ら一行8人が、東京紀尾井町キャンパスに水田宗子理事長を表敬訪問、翁孝川副局長と水田理事長が覚書を交わしました。

浙江省凱瑞教育發展センターとの覚書締結を機に同省内の教育機関や中国における最大級の総合大学である華中科技大学との学術交流の進展が期待されます。



覚書を交わした翁孝川副局長(左)と水田理事長

水田宗子ハンガリー・ポーランド・チェコ・スロバキア奨学生表彰式

2014.9.30

中東欧の留学生 さらに広がり

「水田宗子ハンガリー・ポーランド・チェコ・スロバキア奨学生」の表彰式が9月30日、東京紀尾井町キャンパスで行われました。この奨学金は2009年12月、ハンガリー共和国のショーヨム・ラースロー大統領(当時)が、紀尾井町キャンパスを表敬訪問したことを記念して「水田宗子ハンガリー奨学金」として設立されたのが最初で、今年度から新たにスロバキアからの留学生を対象に加えました。

ハンガリーからブダペスト商科大学、エトヴェシュ・ロラード大学、カーロリ・ガシュパール・カルビン派大学、セグド大学から12人、ポーランドからはワルシャワ大学、ウッチ大学、ポーランド日本情報工科大学からは7人、チェコはカレル大学などから2人、そして今回、初めてスロバキアからコメニウス大学、プレシヨフ大学から3人の計24人が城西・城西国際大学に留学することになりました。

表彰式では、水田理事長からの表彰状授与に続き、日本との文化交流を深める学生親善大使が各国から2人ずつ任命されました。その後、城西大学の留学生を代表してポーランドのリツトマシュさんらが授与の謝辞と決意表明を行いました。

「高麗川 川のまるごと再生プロジェクト」着手式典

本学「高麗川プロジェクト」から発展

河川敷に遊歩道 憩いの場へ

高麗川の河川敷がきれいな遊歩道に生まれ変わります——。本学の「高麗川プロジェクト」をきっかけとして、埼玉県と坂戸市、日高市が手掛ける「高麗川 川のまるごと再生プロジェクト」の着手式典が11月3日、高麗川横のソフトボール場で開かれました。

今回整備されるのは、多和田橋から多和田天神橋までの約700m区間。現在は雑草が生い茂っている河川敷に遊歩道を整備、芝生広場、休憩所など憩いの場も設けられます。式典には森本雍憲学長や白幡晶副学長らが出席、石川清市長らと鉄入れをして、再生プロジェクトの成功を祈りました。

式典に先立ち、薬学部の「あんず組」とダンスサークル「SHOELACE(シューレース)」のメンバーたちがパフォーマンスを披



整備後のイメージ

坂戸市提供

露。また、県が結成した「かわガール」に登録されている「かわかどカヌー倶楽部」のメンバーの本学学生らがカヌーを操って式典に彩りを添えました。

コラム 「埼玉県医療を考えるとことん会議」



住民は「当事者」 一体となり危機突破を

「埼玉県医療を考えるとことん会議」座長 伊関 友伸教授（経営学部）

人口当たりの医師数が全国一少ない埼玉県。県の「医療を考えるとことん会議」の座長に就任した経営学部の伊関友伸教授に会

議の意義と方向性について寄稿いただきました。

今年7月、4年かけて書き上げた単著「自治体病院の歴史 住民医療の歩みとこれから」を上梓した。著作では、明治期以降の自治体病院・住民医療の歴史について整理を行い、これから進む道について議論を行っている。

自治体病院・住民医療の歴史を振り返ってみると、先人たちが絶対的に不足する医療施設・人材の中で、「いかに平等に医療を提供するか」という課題を解決するために知恵を絞ってきたかが分かる。本書では、副題で「住民医療」という言葉を使っている。医療施設・人材は限られており、住民(患者)が、勝手気ままに消費すれば枯渇してしまう。地域の医療を守っていくためには、住民は「お客様」ではなく、「当事者」として参加することが必要であるとの考えに基づく。

埼玉の医療体制 高齢化でますます脆弱に

現在、私は縁あって埼玉県の設置した「医療を考えるとことん会議」の座長を引き受けている。埼玉県は、国立社会保障・人口問題

研究所の推計において、平成22(2010)年58.9万人であった75歳以上の後期高齢者が、平成37(2025)年には117.7万人と約2倍になるなど、全国一のスピードで高齢化が進む。今後、医療に対する需要が急激に増加することが確実である。現在でも人口当たりの医師数が全国一少ないなど、医療

体制の脆弱な埼玉県の医療は崩壊しかねない危険性がある。

会議は、県民主体で県の医療について議論し、抱える問題と解決提言をまとめ、県や県医師会などに対して提言することで、県民ニーズに即した医療政策や医療提供体制の実現につなげることを目指している。全国でも例のない取り組みであると考えている。

会議では、病院や救急車の適正な利用など、住民(患者)が「当事者」として行動すべきという意見が多数出された。今後、埼玉県の医療は、厳しい事態に直面することが確実である。県民・医療機関・行政が一体となって危機に対応していく必要がある。会議の議論が、埼玉県における医療危機を突破する契機となることを期待している。



埼玉県医療を考えるとことん会議HP
<http://www.pref.saitama.lg.jp/page/tokotonkaigi.html>

ニュース

鼎談「Modern Poetry Event II」 2014.11.7

「女性と詩の世紀を振り返る」

東京紀尾井町キャンパスで11月7日、「女性と詩の世紀を振り返る」をテーマにした鼎談「Modern Poetry Event II」(大地の中に染みる音)が開かれました。6月7日に開かれた「チカダ賞受賞記念国際シンポジウム」に続く詩のイベントとなりました。同シンポジウムでパネリストの一人として参加した第5回受賞者の韓国の文貞姫(ムン・ジョンヒ)氏と第6回受賞者の水田宗子理事長が再会を約束。2氏に加えて80年代の女性詩ブームをリードし、女性による詩のイメージを革新した伊藤比呂美氏も迎えて今回の鼎談が実現しました。

3人の著名な女性詩人が、詩との出会いから妊娠・出産、海外



左から伊藤比呂美氏、文貞姫氏、水田理事長

生活体験などについて語り合いました。鼎談の後、聴衆も交えてレセプションが和やかに開かれ、3氏による自作の詩の朗読も行われました。

前総務大臣・新藤義孝氏特別講演 2014.11.17

「地域の元気の塊を日本の元気に」

前総務大臣の新藤義孝氏の特別講演会が11月17日、清光ホールで開かれました=写真。大学の創立50周年と経済学部創設50周年を記念したもので、学生や留学生、教職員、一般の方々でホールは満杯となりました。



総務大臣として地方分権改革や国家戦略特区などに取り組んできた新藤氏は「日本の目指す道」と題した講演で、「この20年間、日本の経済は横ばいで人口減も深刻」などと現状を説明した上で、「それぞれの自治体がアイデアを実行することで、地域の元気の塊を日本の元気にすることが必要」と強調しました。また、日本の排他的経済水域には多くの資源が埋蔵されているとして、「日本は海洋資源大国になるべきだ」と指摘しました。学生の質問に答えた新藤氏は最後に「物事にはなんでも最初の一人がいる」とチャレンジ精神の必要性を訴えました。

シリーズ

浮世絵

～水田コレクションより～

水田美術館所蔵の浮世絵コレクションは、城西大学創立者・水田三喜男により収集されました。浮世絵からは美しさと共に、何ともいぬ歴史の懐かしさが感じ取れます。当時の人物や風俗などが、活き活き描かれている作品をシリーズで紹介していきます。

『風俗三十二相「おもたさう」天保年間深川かるこの風ぞく』 月岡芳年

幕末から明治にかけて活躍した浮世絵師、月岡芳年(1839～92年)が、さまざまな身分の女性たちを描いた全32枚からなる美人画「風俗三十二相」のうちの一つ。三十二相とは、仏が備える32の優れた姿形をいい、これを美人の容貌としぐさに置きかえ、「何々(した)そう」という気持ちなどを表現した。芳年は綿密な筆致で表情の機微をより現実的に描き出しており、歌川派を継承しつつも江戸風とは違う明治期の浮世絵美人画の傑作

となっている。

料理の載ったお膳を運ぶこの「おもたさう」や天麩羅を箸で持つ「むまさう」など食に関する浮世絵のほか、「養生訓」や料理本、江戸の料理を再現した料理標本など約50点を展示した「食べて健康! 浮世絵にみる江戸の食」が高麗祭期間中と11月11日から12月6日まで水田美術館で開かれ、来場者の目を楽

大判錦絵揃物(36寸×24寸)/明治21(1888年)



先輩訪問

各界で活躍するOB、OGを紹介する「先輩訪問」。今回は新潟市の駅前にある新潟第一ホテル社長室長の鈴木雅之さん(50)をホテルに訪ねました。



俯瞰で物事を見て 恐れずに自ら決断を

新潟第一ホテル社長室長 鈴木 雅之さん (1987年度経済学部卒)

—どんな学生生活でしたか。

「1年生のときは準硬式野球部にいましたが、仕送りの学生だったのでアルバイトが忙しくなって辞めました。3、4年生のときは『クラシックギターアソシエーション』のサークルにいました。しかし、ジャズやロック、フォークばかりで、クラシックをやる者が1人もいない。伝統を壊したかもしれません(笑)。卒業式前に坂戸のジャズ喫茶でコンサートをしたのがいい思い出です。実は私の長男も城西大生で経済学部の2年生です」

—ホテル業界に入られた理由は何ですか。

「2年半までは東芝の代理店で電気関係の会社にいました。その半年前に、このホテルの創業者である義理の父親が他界しまして、ホテルの先々のことも考えて入りました。妻は中学の同級生で、大学を卒業後、同窓会の幹事同士で再会して結婚したんです。前の会社もここに近く、設備関係の相談を受けてちょくちょく出入りしていましたし、出張族で泊まる立場からビジネスホテルを見る機会も多く、予備知識はいくらもありました」

—駅前の激戦地で経営は大変だと思います。新潟第一ホテルの「売り」は何ですか。

「新潟駅の半径500mでホテルは22施設あり、客室は3600以上もあります。オール・イン・ワンとはいかないまでも、外に出なくても中でおおむね用が足りるホテルを目指しています。昨年3月に直営のコンビニエンスストアをホテル内にオープンさせ、この11月には1万3000冊以上のコミックを備えたコミックルームとフィットネスルームを作りました。駅前のホテルには、たとえばスポーツの団体さんや学生さんが泊まれる和室が少ないので、一部の客室を改装したほか、小規模ですがゴルフ練習場もあります。おかげさまでシティホテルとして30年、前身の旅館からだとして55年続けてこられました。価格競争よりも価値の競

争なのだと思いますね。そういう視点で方向転換を図っていかなければならないと思っています」

—好きな言葉はありますか。

「一つは大学時代、ゼミの武田実教授がおっしゃっていた『迷った時は、身近な義務から果たしなさい』ということに肝に銘じています。もう一つはアインシュタインの言葉らしいのですが、『想像力は知識より重要』という言葉ですね。知識は使うもので、想像力は未来志向のものという話は、社員にもよく言うことです」

—後輩にメッセージをいただけますか。

「集中したときこそ、俯瞰で物事を見る眼を養ってほしいと思います。一点集中だと周りが見えなくなる。ちょっと距離を置いて遠目で、今自分が置かれている立場はどうなのかをみてみるのが大事だと思います。もう一点、これは私のモットーなのですが、『不決断こそ最大の害悪』ということですね。よい結果になるか、悪い結果になるかは、先々のことで分からない。恐れずに決断して、その決断を自分のものとして大切に扱ってほしいと思います。状況とか境遇のせいにはせず、自分の行動に責任を持った社会人になってくれたらと思います」

■新潟第一ホテル

1960年3月設立、1984年開業。事業内容はホテル、レストラン、駐車場の経営。客室265、駐車場100台。従業員数43人。所在地は新潟市中央区花園1-3-12で、新潟駅から徒歩1分の好立地にあり、和洋バイキングの朝食は、契約農家の新潟県産特別栽培米コシヒカリと手作りの味が口コミで評判になっているという。

シリーズ

学生瓦版

城西大学広報委員会のメンバーが学内外で活躍する団体、個人を紹介する学生瓦版。今回もワイド版でお送りします。

就職課のアドバイザー・野村正博さん 夢に向かう学生を後押し

就職活動に悩んでいる学生にとって、就職課のアドバイザー・野村正博さんは強い味方だ。野村さんは24年間、ほかの大学で就職課のアドバイザーを務め、その後はハローワークに勤務していた。しかし、学生が夢に向かって頑張る姿が好きで、3年前から城西大学のアドバイザーに。その間にCDA（キャリア・デベロップメント・アドバイザー）という資格を取得し、正式にカウンセラーとなった。

相談を受けるのは1日15~30人近く。朝8時ごろから面接練習をする日もあるという。驚くことに野村さんは学生の名前をほとんど覚えている。そのコツは、その人の雰囲気や顔、部活などと結びつけることだそう。就職は、その仕事が好



きで没頭でき、安定性があり、自分の雰囲気合うところをしっかり選んでほしいと語る。具体的な仕事選びのポイントは、自分の好きなことを三つ考え、それにかかわる企業や業界を調べると、興味の幅が次第に広がっていくという。また、インターンシップやアルバイト、店舗見学、先輩に会うなどして、とにかく社会人と会ってさまざまなことを体験してほしいとアドバイスする。

「内定先で何かあったり、また卒業後に会社で活躍するようなことがあったりしたら、訪ねてきて報告してくれたらうれしい」と笑顔で語る。予約をすれば誰でも相談できるので、少しでも不安があるのなら足を運んでみてはどうだろう。

(取材:広報委員会4年・田中陽子、萩原優人)

劇団ASTEEЯ (アステル) やることすべてにやりがい

今年6月、大学に初の演劇サークルが旗揚げした。「劇団ASTEEЯ (アステル)」だ。

劇団ASTEEЯは、演劇経験者であるサークル長の大友千晶さん(現代政策学部2年)を中心に同じく現代政策学部の2年の伊藤ありささんや菊池咲瑛さんらが、大学でも演劇ができる場がほしいと結成した。発足間もないが、8月には北坂戸のにぎわいサロンで「新釈・外郎売り」の初公演を成功させた。

ほとんどが初心者だが、DVDを見ながら演劇の研究をしたり、小道具なども自分たちで工夫して作ったりしている。個性的なメンバーが多く、芸術の観点から演劇を見て小道具などの裏方を中心に活動しているメンバーや、音楽の観点から劇団にオリジナルの楽曲を提供しているメンバーもいる。

そのメンバーたちが目指すのは「演劇インカレ2014」という大会での予選突破だ。また、冬の公演に向けて着々と準備をしている。い

つかは大学全体を巻き込み、一つの作品を作るのが夢だとメンバー全員で語ってくれた。

スタートしたばかりで、人数も少なく、苦勞することも多いが、「やることすべてにやりがいを感じて」活動している。サークルメンバーも募集中だ。

gekidan.asteer@gmail.com

(取材:広報委員会3年・戸澤敦子、2年・郡司拓実)



個性的な人が多いという「劇団ASTEEЯ」

※広報委員会ではニュース・話題を募集しています
jukoho1@gmail.com

経済学部・末永ゼミ

坂戸の食材でラーメン作り

末永ゼミは、リテラシー能力の向上のための活動を行っている。その一方で、坂戸で生産された食材を使ったラーメン作りにも挑戦している。

ラーメン作りは、1、2年生を中心に3班で取り組んでいる。それぞれの班が坂戸で生産された食材を使って、どのようなラーメンを作るのかを企画し、企業に委託し、そして製品として新食堂で販売する。新食堂だけではなく、坂戸の祭りへの出店やインスタントラーメンの販売も行っている。

大学でのやりがいを求めて活動を始めた。この間、苦勞したことは、▽班ごとに活動を行っているので連携が取りづらい▽新食堂との信頼関係を一から築き上げる▽今まで先輩方が築き上げてきた企業との関係を保っていく——ことだったという。

今後の目標は、メンバーが欠けることなく活動を続け、売り出

し中の坂戸担々麺の知名度を上げていくこと。新食堂とのコラボレーションによってどんな“コラボラーメン”が誕生するか楽しみだ。

(取材:広報委員会3年・戸塚優樹、須田達也、1年・山野沙穂、
斎藤宙生)



坂戸七夕まつりでの出店

国際教育センター

留学でグローバルな人材に

国際教育センターは、国際教育や留学にまつわるさまざまな業務を行っている。その一つが留学生を送り出すサポートだ。長期留学ともなると留学の数カ月も前から支援が始まっているという。また、夏と春に行うサマーセミナー、スプリングセミナーの企画・運営もこのセンターの重要な仕事だ。ほかには、海外からの留学生の受け入れ業務や、留学してきた学生たちに大学や日本でのルールを教えるなど、学業だけでなく生活面の手助けもしている。

留学を迷っていた学生が「行ってよかった」「もっと早く経験すればよかった」などと帰国後、話すことが多いという。留学によって成長した学生の姿を見られることが、職員にとって最大の喜びであり、励みだそう。

本学では留学を経験する学生が年々増えてはいるが、まだまだ少ないという。職員の方々は、「短期留学に挑戦し語学の楽しさや異文化に興味を持ってほしい。学生の間に

しかできない留学をより多くの学生に経験してもらい、グローバルな人材に育ってほしい」とメッセージを送っている。

留学に興味のある人は、気軽に国際教育センターのドアをたたいてみてほしい。

(取材:広報委員会3年・貝沼大輔、池田みなみ、
1年・宮本祐輔)



国際教育センターの職員。留学で成長した学生の姿を見られることが喜び

 図書館だより

知的書評合戦ビブリオバトルを開催

「全国大学ビブリオバトル2014地区予選会」を10月3日に開催し、19人の学生が4ブロックに分かれて熱い戦いを繰り広げました。各ブロックのチャンプ4人は、10月18日と11月5日に開催された関東地区決戦に出場し、鈴木賢人さん(経営学部3年)が紹介した『ミッキーマウスの憂鬱』が見事チャンプ本に決まり、12月14日に京都大学で開催される「全国大学ビブリオバトル2014～京都決戦～」への出場権を獲得しました。また、11月3日には高麗祭のメインステージにおいて昨年と同様に、図書館学生ア

ドバイザーによる「ビブリオバトル城西大会決勝戦」が開催され、猪野修平さん(経営学部4年)が紹介した『ウケる技術』がチャンプ本に決定しました。



予選会出場者と学生アドバイザー

図書館主催講演会「知っておこう著作権」を開催

大学でのレポートや卒業論文・研究論文執筆には欠かすことのできない著作権の正しい知識を学んでもらうために10月24日、岩波書店の伊藤利花氏=写真=にご講演いただきました。講演では、引用と転載の関係



や引用の判断基準についてご説明いただき「自分の軸をはっきりもち、引用が必要だと主張できるものを執筆することが大事」とお話しいただきました。準FDとして参加の薬学部を含め118人の参加者は熱心に聴講し、論文執筆中の大学院生からの質問もあり、今後の学習・研究に役立つ講演となりました。

第6回地域相互協力図書館合同主催公開講座を開催

毎年開催している公共図書館6館(坂戸市、鶴ヶ島市、日高市、飯能市、毛呂山町、越生町)との連携事業の公開講座を11月2日に開催し、54人が参加されました。第6回目となる今回は「地域産業の現在:JAPANブランドによる今治タオルの復活」をテーマに、経営学部の辻智佐子准教授=写真=にご講演いただきました。会場には、今治タオルと今治市立図書館所蔵資料および、連携6市町の地場産品、本学薬学部開発のせっけんや坂戸市との連携による小麦「ハナマンテン」を使った学生

企画商品などを紹介し、聴講とともに地域産業に関心を深めていただきました。



ニュース

第288回化学科コロキウム(立教大・松下教授) 2014.10.31

物質の色の変化 改めて知る化学の魅力

滴定指示薬の呈色反応やイオンの定性試験など、色が付いたり変わったりする反応は化学の魅力の一つであり、化学を志すきっかけになった学生もいることでしょう。これらの反応による色の変化が教科書的なレベルであるのに対して、同一の物質が、置かれた環境によりわずかな構造の変化をうけて色調を変化させる物質の開発とその現象の解明は、より奥が深く、最先端の研究課題です。環境をモニターするセンサーや記憶材料としての発展が期待されるからです。

10月31日に開催された第288回化学科コロキウムは、このような分野で活躍されている立教大学理学部化学科の松下信之教授により、「金属錯体のクロモトロピズム——外的環境に応じて色を

変える金属錯体」というタイトルで行われました。金属錯体がつくる配位結合の弱さに着目し、配位構造や結合力を外部刺激により組み替えることによって錯体の電子状態を変化させ色の変化へ導くというのが松下教授の研究手法です。温度による色変化(サーモクロミズム)、光による色変化(フォトクロミズム)、溶媒蒸気にさらすことによる色変化(バイポクロミズム)など、白金錯体や銅錯体のクロモトロピズムについて、発色のメカニズムとともに解説がありました。実験中の学生が偶然に発見したという例も示唆に富むものでした。

初歩の内容から最先端の成果まで、質問も含めて2時間近くにおよぶ講演でしたが、約60人の4年生を主とする出席者は最後まで熱心に耳を傾けていました。化学を志した学生だけでなく、長年化学に関わっている教員にとっても、物質の色の変化は化学の醍醐味であることに改めて気付かせてくれた講演会でした。

【化学科客員教授・小林啓二】

越生町

初歩き 新春武蔵越生七福神めぐり

毎年、お正月に一年の福を招来するため七福神を安置する神社、仏閣に参拝し、心から幸福を祈る七福神めぐり。その歴史は室町時代に民間信仰として始まり、現在のような構成が確立されたのは江戸時代になってからと言われています。

新年1月4日には、越生町でも新春武蔵越生七福神めぐりを開催します。この七福神めぐりは、越生駅前の法恩寺(恵比寿)をスタートして、正法寺(大黒天)、弘法山(弁財天)、最勝寺(福祿寿)、円通寺(寿老人)、太田道灌ゆかりの龍穩寺(毘沙門天)、そして黒山三滝手前にある全洞院(布袋尊)までを健康づくりと招福、長寿、蓄財を祈願して歩く12.6kmの自然豊かな山里コースとなっています。コースの中間点にあたる円通寺近くの越生自然休養村セ



ンターでは、ひもかわうどんやみそおでんで、空腹を満たすことができますので、ぜひお立ち寄りください。

お正月は、武蔵越生七福神めぐりで多くの福を手にし、幸せな一年のスタートにしませんか。

鶴ヶ島市

平成27年から 「脚折雨乞」の準備が始まります

「脚折雨乞」は江戸時代を起源とする伝統行事で、現在は4年に1回行っており、次回は平成28年8月7日に予定されています。

竹と藁で作られた巨大な龍蛇は、長さ36m、重さは約3トあり、約300人が担ぎます。白鬚神社から雷電池までのおよそ2kmを練り歩き、池の中で勇壮に動き回る姿は圧巻です。

平成27年の秋から脚折雨乞行事保存会の方々が中心となって、竹切り・麦踏みなど約1年をかけて行う作業は、市ホームページなどでお知らせする予定です。

雨乞の魅力は毎回ゼロから作り上げていくことです。手作業で作った大きな龍蛇は、地域の人々の心をつ



脚折雨乞当日の様子(平成24年8月)

にして雷電池に向かっていきます。

つるがしまのイメージキャラクター「つるゴン」は、鶴ヶ島市の「鶴」と脚折雨乞の「龍」に由来しています。さまざまなイベントに参加しているほか、ぬいぐるみやクッキー、ビール、タオルなど「つるゴングッズ」も市内の販売店で購入できます。産業の活性化、市の知名度向上に一役買っています。

※つるゴングッズの詳細は、鶴ヶ島市産業振興課(市役所代表 ☎049・271・1111)にお問い合わせください。

東武線沿線情報

「東武東上線 埼玉S級グルメきっぷ」発売中!

東武東上線では、開業100周年を迎えたことを記念し、平成26年11月14日から平成27年3月31日までの間、「東武東上線 埼玉S級グルメきっぷ」を東武東上線の東武トラベル各支店で発売しています。

このきっぷは、東上線(越生線を含む)が1日乗り降り自由のフリー乗車券と、埼玉県が認定した「埼玉S級グルメ」に認定された店舗(全30店舗)のうち、東上線沿線と秩父鉄道沿線にある8店舗でご利用いただけるお食事券がセットになった大変便利でおくなくきっぷで、このようなグルメきっぷは東武鉄道では初めての企画です。また、東上線1日フリー乗車券とお食事券はそれぞれ別の日にご利用いただくことも可能なため、贈り物にも最適です。

この機会に、「東武東上線 埼玉S級グルメきっぷ」をご利用いただき、ご家族やお友達と東上線や秩父線の観光スポット巡りやお買い物などをお楽しみいただきながら、おいしい沿線のS級グルメを堪能して、ぜひ沿線の魅力をご満喫ください。詳しくは、東武鉄道ホームページをご覧ください。



編集/学校法人城西大学 広報センター
発行/城西大学 総務部総務課
〒350-0295
埼玉県坂戸市けやき台1-1
TEL049-271-7712
<http://www.josai.ac.jp>

2014年12月発行

